



八中だより



令和元年5月8日 5月号
調布市立第八中学校
校長 佐藤 政彦

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chofu8>

令和の時代を力強く たくましく AIと共に

校長 佐藤 政彦

令和

2019年、時代は平成から令和へと変わりました。テレビでは、さながら大晦日のような盛り上がりを見せ、各地からの中継やカウントダウンが行われていました。全国民が、新しい時代の到来を祝福し、全国各地が祝賀ムードに包まれたことは、なんともすばらしいことです。思い返すと、昭和から平成への時代は、天皇がご崩御されたことで、喪に伏す中での時代の幕開けでした。

天皇の生前退位には、様々な考えがありましたが、上皇さまのお体のことやご公務のことを考えれば、誰もが納得する制度ではないでしょうか。H31.4.30～R1.5.1、日本全体が幸せを感じることでできた、新時代の幕開けでした。

これから始まる令和の時代は、どんな時代になるのでしょうか。報道では、これからはAIの時代なり、人間の働き方も大きく変わると言われています。多摩ニュータウンでは、2月に、自動運転バス実証実験が行われました。高齢化が進む多摩ニュータウンでは、病院や買い物の移動手段として、一日も早い導入が待たれています。車の自動運転技術もかなり進化をしております。すでに一般車で搭載されている前車追従機能は、渋滞時の高速道路で、とても威力を発揮しています。となると、近い将来、運転手という職は、なくなってしまうのでしょうか？医療の分野でも、たくさんの場面でAIが活用されています。画像診断や業務効率化、ロボットによる診察など、今後さらに利用の範囲が広がるでしょう。なかでも医療用動物ロボットは、高齢者が動物ロボットと触れ合うことで、楽しみや安らぎを得ることができ、動物の死による悲しみや病気の心配もなく、アニマルセラピーとしての活用が進んでいます。

学校現場はどうでしょうか。教師は必要なくなってしまうのでしょうか？子どもたちに一方的に知識だけを提供するのなら、AIでも可能でしょう。大手予備校でのサテライト授業（衛星放送授業）のようです。ですが、学校での教育には、AIにはできない人間ならではのことがあります。将棋の羽生善治氏とiPS細胞の山中伸弥教授の対談による『人間の未来 AIの未来』という本の中で、羽生氏は、『AIがどれだけ進化しても、ゆるキャラの「ふなっしー」を作ることにはできない。AIにより、いくら過去のヒット商品のデータを集めても、あんな大雑把なデザインで大人気を得られる、突然変異種のようなものは生み出せない。そこには人間にしかできない創造的行動がある』、『AIが得意なのは「最適化」であり、組み合わせの中から最も適した答えを見つけ出すことだ。人間のような美的センスは持ち合わせていない。つまり人間が自然の風景を見て「美しいなあ」、「素晴らしいなあ」と感じる美意識や感性を学習させるのはかなり大変である』とあります。このように学校教育には、“AIではなし得ないこと”＝“人間の力によって育てられること”＝“学校で育てること”が確実にあるのです。

今まで人の力に頼っていたことがAIに変わることで、仕事の量は明らかに減少します。このことは、時間や心に余裕をもたらす、更には、質的な向上が図られます。AIの活用により、仕事の内容や種類、働き方、考え方が変わっていくことは間違いありません。この混沌とした時代に、社会の中心となって活躍するのは、君たち一人一人です。新しい時代をしなやかに生き抜くためにも、中学校の3年間で多くのことを吸収してください。